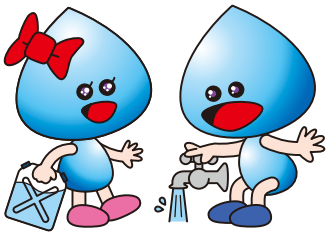
東日本大震災【南三陸町への給水応援】



水は人の命です。東日本大震災により水道施設に被害が生じた石巻市と南三陸町に対し、登米市水道事業所は、震災直後の平成23年3月18日から水の提供を行いました。特に南三陸町の被害は甚大で、水道の自給が可能となった8月10日まで、延べ146日間に渡り給水応援を行いました。

■鉄の結束…日本水道協会災害時相互応援協定

水道事業体は、登米市も含めて日本水道協会に加入しています。加入事業体が事故や災害により給水に支障が生じた際は地方支部や県支部が機能し、直ちに関係事業体と連絡を取り給水応援や施設復旧応援を行います。東日本大震災においても震災直後から応援体制が準備され、被災地にかけつけました。

■石巻が被災、登米市が南三陸町の応援拠点となる

宮城県内被災地に対する給水応援準備は、通常日本水道協会宮城県支部が置かれる石巻地方広域水道企業団が中心に行いますが、石巻市が被災し支部機能が一時停止したため、登米市水道事業所が日本水道協会東北地方支部（仙台市ー仙台市も被災ー名古屋市が支援）と連携し、南三陸町への応援拠点となりました。

■3月18日午前9時、南三陸給水応援隊第一陣出発

登米市水道事業所先導車両に続き、給水車6台が南三陸町に向けて出発しました。

災害協定によりかけつけていただいた登米市管工事業協同組合員、フジ地中情報株式会社、宮城県建設業協会登米支部の皆さんに協力をいただきました。

3月18日、登米市内には断水や出水不良地域6ケ所に給水所が置かれ、時間給水を行うなど給水制限の真っただ中でありましたが、登米市管工事業協同組合などの協力により南三陸町への給水応援隊を編成し現地活動に入りました。これは、日本水道協会による給水応援が開始される3月22日まで行われ、延べ30台の給水車が稼働しました。

【給水応援にご協力いただいた会社】（敬称等略、順不同）

団体名	会社名
登米市管工事業協同組合関係	㈱菅慶、登米建設㈱、日野ポンプ商会、㈲佐々木設備、㈲後藤工業、㈱佐々木電業
宮城県建設業協会 登米支部関係	㈲島瀬工務店、宮田建設㈱、㈱只野建設、㈱島津組、㈱渡辺建設、 ㈱大伸建設、工藤建設㈱、㈱只野組、㈱イシケン、㈲スズコー、㈲米谷建設

■日本水道協会給水応援

・給水車による給水応援

平成23年3月23日から日本水道協会による給水応援が始まりました。給水応援は地方支部単位で行われます。中国地方支部は4月29日まで、中部地方支部は4月28日まで、宮城県を除く東北地方支部は6月30日まで継続されました。登米市水道事業所では、水の補給拠点となる一方で、各事業体の宿泊斡旋、燃料及び食事調達、車両修理の仲介などの後方支援を行い、給水応援を支えました。

【給水応援に従事した事業体】順不同

支部名	事業体名
中国地方支部	広島市、東広島市
中部地方支部	金沢市、津幡町、輪島市、木曽町、珠洲市、野々市町、石川県（環境課）、松本市、佐久市、東御市
東北地方支部（山形県支部）	山形市、酒田市、鶴岡市、新庄市、遊佐町、川西町、東根市、寒河江市、米沢市、飯豊町、村山市、高畠町、南陽市、山形県企業局

朝日を浴びて待機する日水協給水車列線7台
場所：登米市役所登米庁舎前
撮影：平成23年4月10日　5時54分

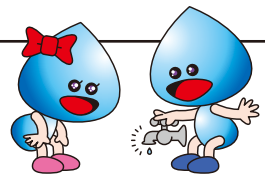
・給水タンク

3月23日、南三陸町の各避難所や断水地区用に、日本水道協会を通じ給水タンク等一式が貸与されました。登米市を拠点に展開した給水応援のうち、給水タンクへの水補給は最も重要な任務となりました。

新潟市給水タンクからの給水風景
場所：歌津町吉野沢団地
撮影：平成23年4月28日11時47分

【給水タンク貸与状況】

事業体名	数量	内容
新潟市（中部支部）	13	1㎥キャンバスタンク 仮設給水装置一式
加茂市（中部支部）	3	1㎥キャンバスタンク 仮設給水装置一式
登米市（東北支部）	4	0.5㎥給水タンク2 1㎥給水タンク2
計	20	



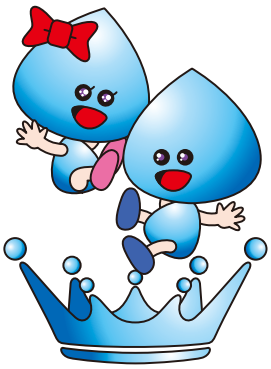
■日本水道協会宮城県支部による給水応援

南三陸町に対する宮城県支部の給水応援の概要は次のとおりです。被災当初は、日本水道協会東北支部事務局である仙台市の被害も大きい状況にありましたが、被災から2ヶ月後の5月9日から南三陸町の給水応援に加わり、以降7月30日まで活動しました。

県南地域による給水応援は、蔵王町と丸森町の給水車を用い、七ヶ宿町など複数の事業体が日程を調整して交代制で実施するなど、特徴的な給水応援も行われました。また、大崎市や栗原市は、状況に応じて給水車2台を稼働させるなど、南三陸町近隣事業体として、長期に渡り支援を行いました。

区分	応援事業体数	応援事業体名
3月	1	登米市
4月	5	大崎市、栗原市、蔵王町、丸森町、登米市
5月	14	仙台市、白石市、角田市、大崎市、栗原市、大和町、美里町、涌谷町、加美町、蔵王町、七ヶ宿町、丸森町、大河原町、登米市
6月	17	仙台市、塩釜市、白石市、角田市、大崎市、栗原市、松島町、利府町、富谷町、大衡村、大和町、涌谷町、蔵王町、七ヶ宿町、丸森町、大河原町、登米市
7月	4	仙台市、大崎市、栗原市、登米市
8月	2	大崎市、登米市
計	43	

給水タンクに張られた事業体ステッカー（栗原市）



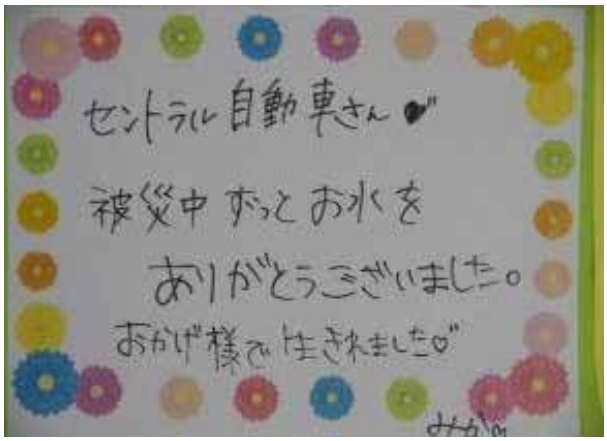
■水の補給基地：登米市（水道事業所他2ケ所から水を提供）

南三陸町には、日本水道協会による給水応援のほか、自衛隊や民間会社がボランティアで活動しました。自衛隊の部隊は主に九州や沖縄から派遣され、記録上3月20日から6月30日まで活動し、開始から終了まで約4カ月の間延べ3，042台の給水車両（1t及び5t）が、登米市から4，784㎥の水を供給しました。

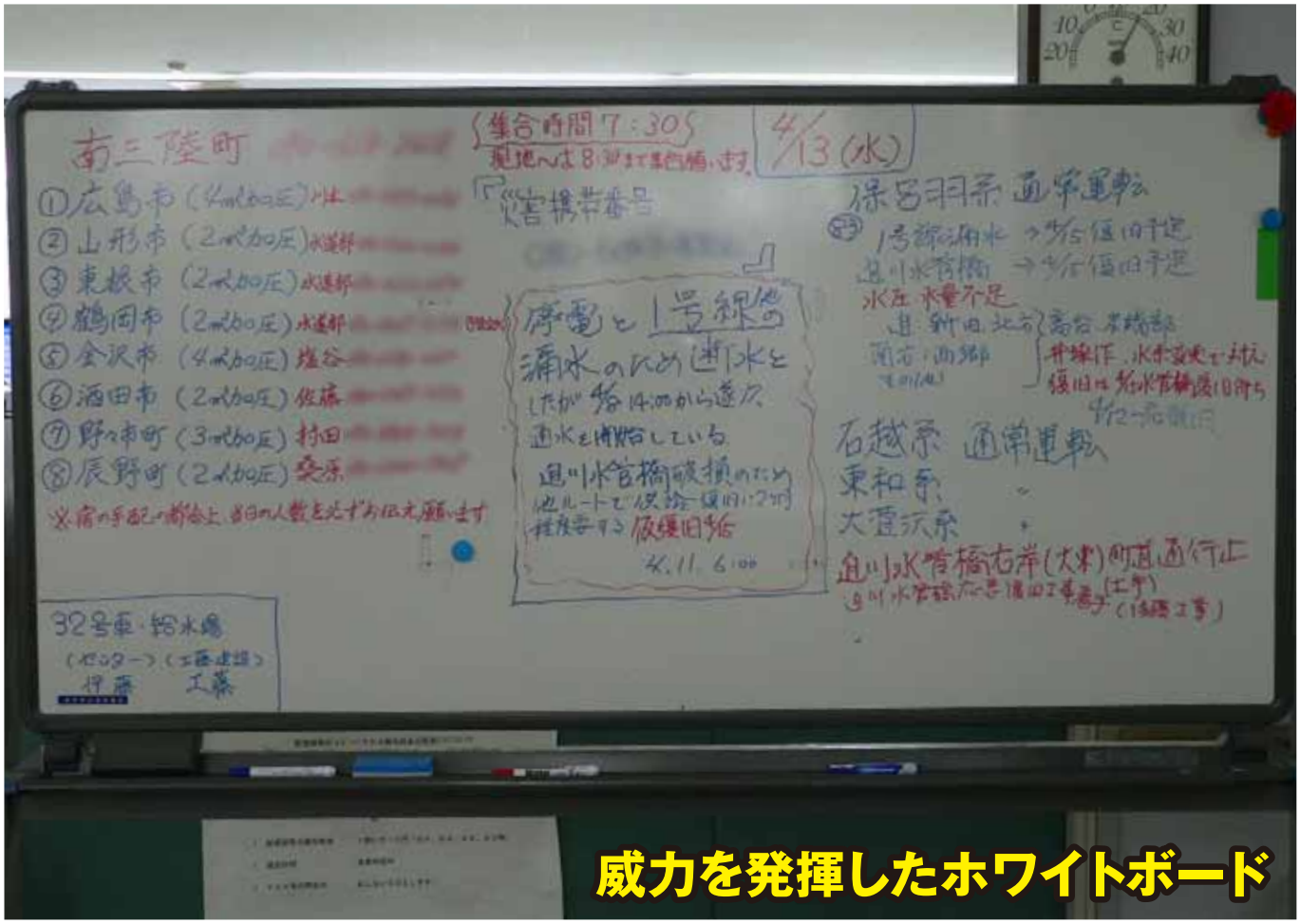
民間では、セントラル自動車が4月9日から6月30日まで20t給水車によりホテル観洋避難所に給水を行い、ANA（全日空）が「心の湯プロジェクト」により、4月28日から6月28日まで、平成の森避難所に給水を行いました。そのほか、天理教団などボランティアが各方面に給水を行いました。また、南三陸町の水産会社や福祉施設にも希望どおり水を提供し、登米市は水補給の前線基地としてフル稼働しました。

給水中の給水車両（左・セントラル／右・自衛隊）
場所：登米市役所登米庁舎西
撮影：平成23年4月24日　9時

【避難者から贈られた感謝の言葉】



■給水応援アラカルト



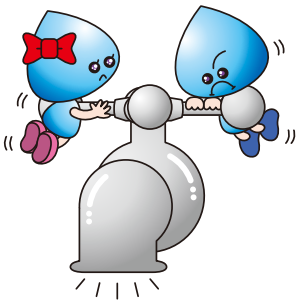
威力を発揮したホワイトボード

南三陸町給水応援等の情報をホワイトボードに書き入れ、災害対応関係者に毎日情報提供を行いました。この情報は、給水応援者の朝の打合せで活用したほか、給水応援従事者の連絡先を明示することで、昼食場所の調整や余震発生時などの安否確認、避難指示等にも活用しました。

震災による電力ダウンでOA機器が十分に使用できない環境の中、ホワイトボードやアナログ電話などローテク機器が有効に機能しました。これは、今後の危機管理対策を考察する上で大きな手掛かりとなりました。

○記録・スナップ

南三陸町で津波被害を免れた世帯には個別給水が行われましたが、丘陵地で道が狭い場所が多く、給水車の運行には常時危険が伴いました。



▶山形県寒河江市による給水活動

▶全日空による給水活動

平成の森避難所での活動風景。全日空では関係会社社員も含め、給水ボランティアの社内公募を行ったところ、定員をはるかに超える応募が殺到し人選に困ったそうです。

飛行機の整備士やパイロット、キャビンアテンダントなど職種を越えて水を運びました。

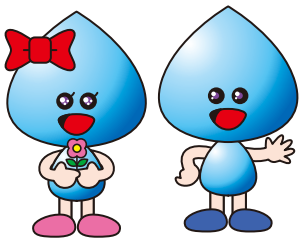
▶パトライト装備の石川県野々市町給水車

窮迫した水需要に備え、一部の水道事業体では給水車の緊急車両指定を受けています。

▶朝のブリーフィング

給水応援出発前の朝の打合せ風景。多くの水道事業体が交代で給水に従事したため、情報の共有が不可欠でした。従事者の確認はもとより、昼食の方法給油スタンドの位置、宿舎、南三陸町との連絡方法などを確認し出発しました。

山形支部では、宿舎となった旅館で独自の引き継ぎを行い、本市の負担軽減に配慮いただきました。



**給水応援に
協力いただいた皆さん、
お疲れさまでした。**